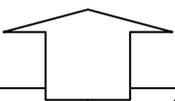


学 校 名	山形市立第九小学校	校 長	大 場 良 光
	山形市馬見ヶ崎二丁目5 - 1 TEL 681 3600 FAX 681 - 3518	研究主任	柴 崎 亮 子
研 究 主 題	子ども一人ひとりの輝く姿を求めて（7年次） ～ 音声言語能力を高める学習活動を通して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、「明るく、かしこく、しんぼう強く、やる気のある子ども」を子ども像に掲げ、「豊かな心を持ち、よく学び、たくましく生き抜く子どもの育成」を目指している。</p> <p>情報化・国際化が進み、価値観も多様化している社会の中で、子ども達が一人ひとりの個性を十分に発揮し、「自分らしさ」を表現することが重要であり、私たちはそれを「輝く姿」であると考えて、本主題を設定した。</p> <p>研究3年次までは、「教育課程」「特別活動」「教科（合科横断的学習を含む）」「総合的な学習」の4つの柱をたて、子どもにとって価値ある学校づくりを目指し、全教育活動の中で様々に試みを重ねた。4年次からは、「教科」「総合的な学習」を重点に目指す子ども像を追究してきたが、音声言語による自己表現力の不足が、研究初年度からの継続的な課題として浮かび上がった。</p> <p>そこで5年次では、サブテーマを「豊かな自己表現を育む総合的な学習を通して」とし、音声言語を中心に輝く姿を追究することにした。研究領域を「総合的な学習」と限定したのは、体験活動を重ねることにより子どもたちが伝えたい内容を豊富に持つことができ、それを表現する場も多様に設定できると考えたからである。6年次には、音声言語能力の基礎となる国語科の指導にも領域を広げ、より確かで豊かな自己表現を引き出すことを目指して実践した。</p> <p>今年度は、国語科における指導を核としながら、教科領域を限定せずに表現の場を設定し、児童の音声言語能力を一層高めていきたいと考えている。</p>		
研 究 の 目 標	<p>自分の良さを十分に発揮し、思いや願い・学びを豊かに自己表現する「輝く子ども」を育てるための活動や手立てのあり方を、音声言語能力の育成を中心に実践を通して研究する。</p>		
研 究 の 仮 説	<p>（1） 音声言語能力を培う学習活動を国語科中心に意図的・系統的行うことを前提として、表現の場を工夫し、音声表現活動を連続的・発展的に展開していけば、表現力が高まり、豊かに話す子どもが育つのではないかと。</p> <p>（2） 子どもの思いがふくらみ、表現への意欲が高まるような様々な体験活動を展開していけば、生き生きと自信を持って表現できる子どもに育つのではないかと。</p>		

研究の方法と内容	<p>研究の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全体会・学年部会・研究推進委員会で共通理解を図りながらテーマに迫る。 2 研究協力者を招いて、授業研究会（大研3・小研3）を行う。 3 研究だよりを発行し、実践を通しての成果と課題を明らかにしながら研究を深め、まとめとして研究紀要を発行する。 <p>研究の内容</p> <p>目指す子ども像の具現化に向けて、以下の切り口から迫っていく。</p> <p>目指す子ども像</p> <p>「いつでも どこでも だれにでも 伝えたいことを はっきりと 話す子ども」</p>																								
																									
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">国 語 科</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">各教科・総合的な学習 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> 音声言語指導の能力表と、国語科の年間指導計画を参考に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話すこと ・ 聞くこと ・ 話し合うこと ・ 音読・朗読・群読 の 4領域にわたって、本校の実態に即した系統表を作成し、意図的・連続的な指導を行うことにより音声言語能力を伸ばす。 </td> <td style="padding: 5px;"> 学習活動の中に、子どもの思いがふくらみ、表現への意欲が高まるような体験活動を設定することにより、伝えたい内容を豊富に持たせることができる。 表現活動の場を多様に設けることにより、表現の質を高めていく。 </td> </tr> </tbody> </table>	国 語 科	各教科・総合的な学習 等	音声言語指導の能力表と、国語科の年間指導計画を参考に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話すこと ・ 聞くこと ・ 話し合うこと ・ 音読・朗読・群読 の 4領域にわたって、本校の実態に即した系統表を作成し、意図的・連続的な指導を行うことにより音声言語能力を伸ばす。	学習活動の中に、子どもの思いがふくらみ、表現への意欲が高まるような体験活動を設定することにより、伝えたい内容を豊富に持たせることができる。 表現活動の場を多様に設けることにより、表現の質を高めていく。																				
	国 語 科	各教科・総合的な学習 等																							
音声言語指導の能力表と、国語科の年間指導計画を参考に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話すこと ・ 聞くこと ・ 話し合うこと ・ 音読・朗読・群読 の 4領域にわたって、本校の実態に即した系統表を作成し、意図的・連続的な指導を行うことにより音声言語能力を伸ばす。	学習活動の中に、子どもの思いがふくらみ、表現への意欲が高まるような体験活動を設定することにより、伝えたい内容を豊富に持たせることができる。 表現活動の場を多様に設けることにより、表現の質を高めていく。																								
<p style="text-align: center;">一人ひとりの子どもが生きる教育環境</p> <p>すべての子どもが、基礎・基本を確実に習得することができるように、様々な授業形態を試みる。(T.T・G.T を招く 等)</p> <p>委員会・クラブ活動等における、発言・発表の場の充実。</p> <p>朝の会・終わりの会等を有効に活用したスピーチ等の実践。</p> <p>安心して発言できる人間関係を育てる学級経営。</p> <p>全校で力を入れて取り組む活動。 e x . 詩の暗唱、音読朝会、フロア朝会</p>																									
研究の計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">4月</td> <td>研究組織・研究全体計画の作成</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5月</td> <td>授業研究計画作成</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6月～7月</td> <td>国語科系統表作成</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8月</td> <td>全体研修会（理論研修 等）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9月</td> <td>授業研究会1（6年算数科）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10月</td> <td>授業研究会2（3年国語科）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>授業研究会3（2年国語科）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11月</td> <td>授業研究会4（4年国語科）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>授業研究会5（5年国語科）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12月</td> <td>授業研究会6（1年国語科）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1月～2月</td> <td>実践のまとめ 研究紀要作成 研究の反省</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3月</td> <td>今年度の研究のまとめ 研究紀要の発行 次年度の構想</td> </tr> </table>	4月	研究組織・研究全体計画の作成	5月	授業研究計画作成	6月～7月	国語科系統表作成	8月	全体研修会（理論研修 等）	9月	授業研究会1（6年算数科）	10月	授業研究会2（3年国語科）		授業研究会3（2年国語科）	11月	授業研究会4（4年国語科）		授業研究会5（5年国語科）	12月	授業研究会6（1年国語科）	1月～2月	実践のまとめ 研究紀要作成 研究の反省	3月	今年度の研究のまとめ 研究紀要の発行 次年度の構想
4月	研究組織・研究全体計画の作成																								
5月	授業研究計画作成																								
6月～7月	国語科系統表作成																								
8月	全体研修会（理論研修 等）																								
9月	授業研究会1（6年算数科）																								
10月	授業研究会2（3年国語科）																								
	授業研究会3（2年国語科）																								
11月	授業研究会4（4年国語科）																								
	授業研究会5（5年国語科）																								
12月	授業研究会6（1年国語科）																								
1月～2月	実践のまとめ 研究紀要作成 研究の反省																								
3月	今年度の研究のまとめ 研究紀要の発行 次年度の構想																								